

商店街名：柴田商店街振興組合（名古屋市）

キャッチコピー

名南を繋げる商店街

◎商店街の将来ビジョン（目指す未来の商店街の姿）

◇地域の状況（2030年度頃）

2031年の3学区統合（柴田・白水・千鳥→名南）を控え、地域団体の大規模な編成・統合が進み地域の意思決定の場における代替わりが進む。一方、近年の堤防工事や公共交通機関増便、アジア系外国人の流入を鑑みると明確な衰退は起こらず、人口も1万6千台を保ち属性に大きな変化は見込めない。



◇商店街の姿

ターゲットは消費者から地域団体に徐々に移行、団体間の調整や共創を地域に広く開かれた中立的立場から行うことが地域における役割となり、商店街が地域の出会いの場となる。商店は少数精鋭、プレミアム化が進み、名古屋市商店街商業機能再生モデル事業（リノベーション事業）、シバタウン構想等2020年代の成功事例を元に生存を図る。

◇地域の状況（2035年度頃以降）

外国人比率10%、学区の統合完了、伊勢湾台風被災記憶の途絶、高度情報化等、地域の属性に目に見えた変化が起こり始める。名古屋市の人口の0.7%を抱え、南端に位置する名南地区としての地域のデザイン、ブランディングがより重要となる。



◇商店街の姿

店舗、行事の維持が徐々に困難となり、少数精鋭化はさらに進む。商店街に求められる役割は地域の意思を集約するプラットフォームにさらに傾き、産官学民が集う場となる。街の属性変化をプラスに捉え、新たな共創を産み、それを支える基盤としての活躍が期待される。

◎未来の商店街の姿に至る方法（プロセス） 【構想計画期間：2026年度～2030年度】

既存の店舗、行事を維持しつつ、従来培った産官学民との関係性および情報発信媒体を活用し、学区統合までの期間を名南地域の関係強化の期間に充てる。商業流通課、地域商業課、地域力推進課、愛商連、名商連の他、名南地区まちづくり協議会、大同大学CRRC、名南防災とくらし連絡会、等地域団体へ積極的に参加、各種SNSや金シャチ商店街、ミナミックス等で発信。統合後の2030年代に地域のプラットフォームを担う下準備を整える。

◎実行体制

(1) 未来プロジェクトチーム

構成：地域の多様な主体の関係者を含む計8名

(2) 地域プラットフォーム

名称：未来を279（ツナグ）

目的：商店街に対する意見をより広範に把握するため、更に多くの地域団体に意見を伺う。

参画：商店主、市町村、地域住民、学校、大型店、その他

◎想定・把握している「商店街に対する地域ニーズ」

地域住民や団体の多様性の高まりに伴う、これらの間での橋渡しの役割を期待する声が数多くあった。また、近年注力している情報発信の取り組みについて、これをより拡充する声が数多く聞かれた。併せて、学区統合等、将来に起きる地域の大きな変化に対する長期的ビジョンの制定への声も少なからず確認できた。

◎将来ビジョンの具現化や地域ニーズの対応のために行う地域貢献活動の内容

現行の地域行事を維持しつつ、より活発な広報と、多方への参加の働きかけを行う。この際、活動内容について各種の情報プラットフォームを用いて十分な告知を行うことを意識するとともに、商店街が地域に対しどのような姿勢で活動しているか、を広く開示するよう努める。